

Ⅱ. 域内経済循環力の強化

- ◆ 県内で**お金が回る、投資、消費、雇用が好循環**する経済構造であることが大切であると考えています。
- ◆ 県民に県内で消費してもらうことはもとより、県外からの多くの観光客を呼び込んで消費を活性化させるなど、**消費を喚起させるまちづくりへの取組**が必要です。
 - 観光地づくり
 - 賑わいづくり
 - 生産から販売までの一貫体制の構築
 - IoTの活用による域内新ビジネスの拡大

観光地づくり

- ◆ これまでの観光プロモーションに加え、観光地づくり、観光客へのおもてなしの向上、ゆっくり奈良を楽しんでもらう環境づくりにより、リピーターを増やすことが重要。



- このたび、日本初となる「JWマリオット」ホテルが奈良に進出することが決定。
- このホテルの立地あわせ、ホテルを核とした賑わいと交流の拠点の整備を進め、奈良観光の基点となるよう、商業施設や交通施設の整備を推進。
- 猿沢池周辺で、外国人観光客向けの観光案内、交流、宿泊機能を備えた「猿沢イン」を整備。
- あわせて、猿沢池周辺エリアに賑わいを創出することで、観光地としての魅力アップを目指す。

➤ 奈良らしい観光地づくりのための良いアイデア・施策はないだろうか。

マリオット・インターナショナルの最高級ブランド「JWマリオットホテル」の日本初進出が決定 (H28年3月)

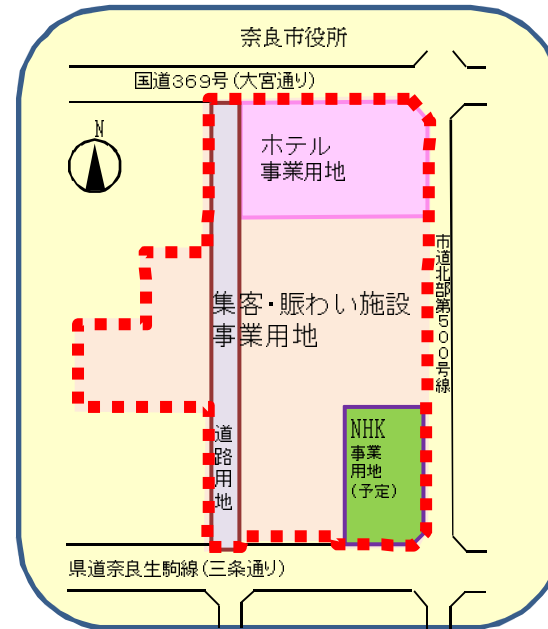
【ホテル事業計画】

所在地	奈良市三条大路1丁目
敷地面積	4,000m ²
延床面積	約15,000平米
開業時期	2020(H32)年春 予定
客室数	150室

【完成予想パース】



【拠点事業内配置図】



ホテルの立地に合わせ、**日帰り型観光から滞在型観光へ転換**するため、**ホテル+コンベンション施設**を中心に、**奈良らしい観光交流滞在拠点を創出**。観光、コンベンション、展示・催事、バスターミナル・駐車場、飲食・物販等を一体的に整備。

【事業者から提案のあったイメージパース】

■全体コンセプト

- 奈良公園、平城宮跡などアクセスが良好な好立地に位置しており、奈良における滞在型観光拠点として、県の魅力向上に貢献する機能を導入
- ここに訪れた観光客と地域住民が交流し、県内各地域に人が溢れ出し、賑わいのある地域交流の拠点を目指す

■デザインコンセプト

- 奈良の都「平城京」を中心に天平年間に栄えた貴族・仏教文化である天平文化をフォーカス。



外国人観光客向けの観光案内機能・交流・宿泊機能等を備えた拠点施設「奈良県猿沢インーNara Visitor Center & Innー」を開設し、猿沢池南側の前庭空間との一体整備を図り、猿沢池周辺の賑わいを創出します。

＜主な機能・サービス＞

- ①観光案内・情報発信機能 ②交流機能 ③宿泊機能 ④その他おもてなしサービス



＜交流館を活用した取り組み＞

- ◆外国人スタッフを活用した情報発信
- ◆外国人観光客おもてなしイベントの開催
- ◆外国人観光客おもてなしバスの運行

＜スケジュール＞

- ◆H27年7月23日 : 一部オープン
(観光案内・情報発信・交流・物販)
- ◆H28年11月(予定) : 全館オープン

賑わいづくり

<小売・飲食業の活性化>

- ◆ 奈良を魅力ある消費地にするためには、地域の商業、特に地域の商店街が元気になることが重要。
- ◆ 県内のあちこちに賑わい拠点を面的に整備し、観光客が県内に長期滞在して貰い、お金を使ってもらうことが重要。



- 県では、地元市町村がまちづくりのための仕掛けに主体的に動き、県と協働して取り組むことが重要と考え、アイデアや熱意のある13の市町村と連携協定を締結してまちづくりを推進。
 - 平成28年4月に開校した、なら食と農の魅力国際大学校(NAFIC)を核とした新たな賑わいづくりの拠点づくりを構想。
- 県内で良い店と人の賑わいを増やして、小売・飲食業が活性化するために、良いアイデア・施策はないだろうか。

人通りがまばらになった商店街に賑わいを取り戻すための試みや、門前町の町並みを活かした物販店や飲食店の整備などに取り組んでいます。

まちづくりと連携した商業活性化施策

御所市

駅前から御所まちへ誘導する活気ある賑わいづくりを目指す。

アンテナ、チャレンジショップの導入による空き店舗対策

御所マーケットプレイス @ 新地商店街

桜井市

門前町のまちなみや飲食などが楽しめ、まちなかとの人の往来が生まれることを目指す。

地元特産物である三輪素麺を活用した地域おこしと連携

三輪素麺ブランド力向上プロジェクト 産・官・金連携

三輪

田原本町

駅前の活性化で、賑わいと魅力ある駅周辺の形成を目指す。

空き店舗、空き地を活用したチャレンジショップ等の実施

やどかり市 @ 戎通商店街



協定締結済み市町村(13市町村)

天理市、大和郡山市、桜井市、奈良市、五條市、橿原市、大和高田市、高取町、御所市、三宅町、明日香村、宇陀市、大淀町

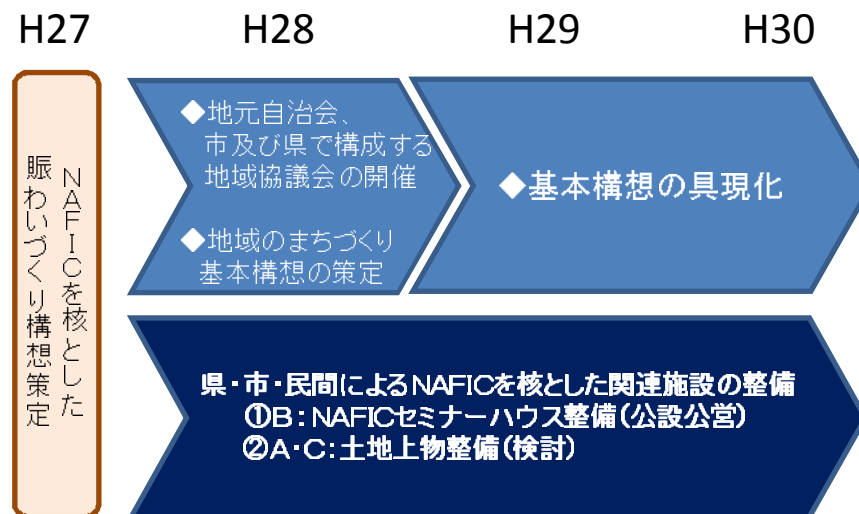
里・里山・奥山とつながる里山の伝統的な構成を生かしたゾーン編成により「**なら食と農の魅力創造国際大学校(NAFIC)**」を核とした賑わいづくりを進めます。

◆施設等の基本構成（ゾーニング）

- A 里山の産業とまちを結ぶマーケットプレイス
農と林の直売所
- B 学生寮と宿泊施設の併設によるNAFICの機能強化
NAFICセミナーハウス
- C 抜群の眺望を生かし、美と健康をテーマとした集客事業を構想
薬草・癒しのリゾート



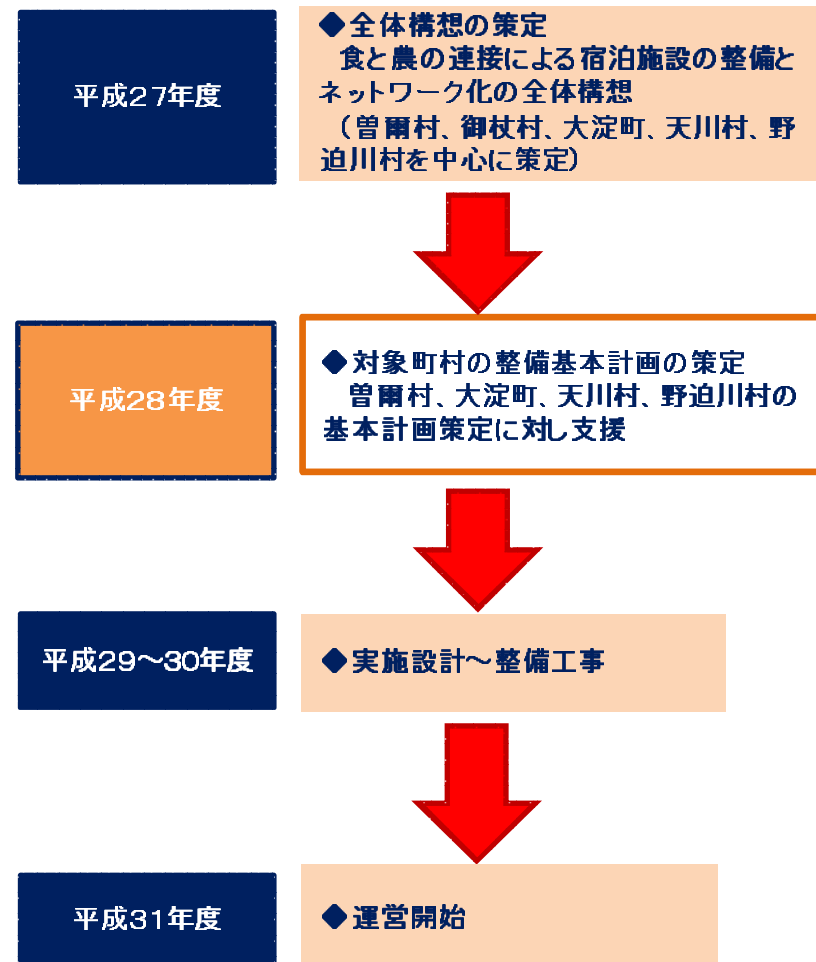
なら食と農の魅力創造国際大学校(NAFIC)（桜井市）



“ぐるっとオーベルジュ”構想の推進

～地域の食と農を活かした
オーベルジュネットワーク化の推進～

南部・東部地域における公設民営のオーベルジュ整備に対して支援を行い、なら食と農の魅力創造国際大学校(NAFIC)と連携して、一体的に地域の活性化を図る。



賑わいづくり

＜文化の振興＞

- ◆ 魅力ある消費地を目指すとともに、文化イベントの開催により、奈良に賑わいを呼び起こし、多くの人を奈良に呼び込み、域内経済の活性化を図ることが必要。



- **ムジークフェスト、大芸術祭**を開催し、県民に文化に親しんでもらう機会を増やすとともに、県外からの誘客による消費拡大効果を期待。
- また、平成29年度開催の「**第32回国民文化祭・なら2017**」「**第17回障害者芸術・文化祭なら大会**」や、平成32年(2020年)のオリンピック・パラリンピックイヤーに向けて、国内外からの誘客につなげたいと考えています。
- このような**文化イベント**を**毎年継続**し、また**年間切れ目なく実施**することで、認知度も向上し、リピーターも増えることを期待でき、域内経済循環力の強化を図っていきます。

➤ **文化振興策を活用して消費拡大につながる良いアイデア・施策はないだろうか。**

県内を音楽一色に染める、ムジークフェストならを開催。県民が文化に親しむ機会を増やすとともに、県外からの誘客による賑わいの創出や消費拡大を目指します。

■ ムジークフェストなら2016の概要

- ・ 唐招提寺でジャズの大型コンサート
- ・ フランス国立リヨン管弦楽団など6つの県主催コンサート
- ・ 奈良公園・春日野園地での大規模野外コンサート
(未就学児とその家族向けのファミリーコンサートを開催)
- ・ 18市町村と連携(昨年8市町村)
- ・ 奈良オクトーバーフェスト、県立美術館の藤城清治展等と連携



奈良公園・春日野園地での
野外コンサート

社寺での公演

ステージカー公演

(写真は昨年度の様子です)



ロシア・ナショナル管弦楽団

美術館での公演

橿原神宮

■ ムジークフェストなら2015開催実績

- ◎期間: 2015.6.13(土)～6.28(日)16日間
- ◎会場: 奈良県内の社寺、文化施設、まちかどのフリースペース、飲食店など
(県内21市町村、137の会場で304公演を開催)
- ◎来場者数: 約11万人(連携を含む合計約14万人)
- ◎主催: ムジークフェストなら実行委員会・奈良県

「文化の力で奈良を元気に!!」をテーマに、奈良県大芸術祭を開催。「国民文化祭」(平成29年度)、また2020年のオリンピック・パラリンピックイヤーに向けて、さらなる発展を目指します

実施概要 ○県主催イベントのほか、「音楽」「演劇」「芸能」「舞踊」「美術」「映画」などさまざまな分野の個人・団体が主催するイベントが奈良の秋を彩る

広報展開

奈良県大芸術祭ウォーカー

関西ウォーカーに挟み込み発売(10万部)、市町村、文化施設、観光案内所等県内外で無料配布(10万部)



バスフロント幕による広報



プロモーション映像展開

県内および京阪神を中心とした主要駅のデジタルサイネージで発信



大阪駅中央口

事業展開

○県主催イベント: オープニングイベント、パブリックアート、県民きらめきステージ、アートマネジメントゼミによる人材育成等

○連携イベント: 市町村、文化芸術団体による地域イベント等



オープニングイベントの様子



世界を舞台に活動するレナード衛藤氏とスティーブエトウ氏をゲストに迎え、県内で活動する和太鼓団体等と一緒にパレードとステージ公演を開催



世界で活躍する彫刻家・新宮晋氏の風を受けて動く作品を県庁前と猿沢池で展示



■平成27年度の開催状況

- ◎期間: 2015.9.1(火)~11.30(月)
- ◎場所: 奈良県内全域
- ◎参加催事数: 642
- ◎目標参加のべ総数: 122万人(昨年度実績97万人)
- ◎主催: 奈良県大芸術祭実行委員会・奈良県

平成29年度開催の「国民文化祭」、さらには、東京オリンピック・パラリンピックに向け「奈良県大芸術祭」を発展させ、奈良県の文化力を全国に発信する。

「国民文化祭」「全国障害者芸術・文化祭」の開催概要

「第32回国民文化祭・なら2017」「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」を全国で初めて一体開催

開催理念

- ・日本文化の源流を探る ～日本文化の源流を国際的つながりも視野に掘り起こす
- ・文化の今を楽しむ ～積み重なった今ある日本文化の厚み、深みを堪能する
- ・文化芸術立国の礎を築く ～文化の交流で地域に元気をつくる
- ・障害のある人とない人の絆を強く ～文化の力で新たな関係をつくる

【期間】平成29年9月1日(金)～11月30日(木) 【場所】県内全39市町村で開催予定

総合フェスティバル

オープニング
(開会式典・フェスティバル)



フィナーレ
(次開催地への引き継ぎ)



シンポジウム事業

国際交流事業

障害者交流事業

分野別フェスティバル
市町村連携事業(伝統文化・歴史文化・音楽・美術・演劇 等)

協賛・応援事業

県内外の文化芸術団体、民間企業、教育機関などが主体となり、奈良県が広報等の支援をする事業

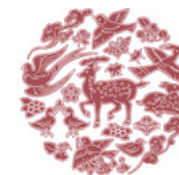
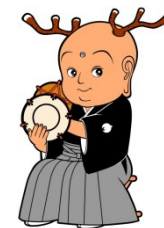
イベントの展開

■500日前(2016年4月19日)

- ・プロモーション映像公開(大阪芸術大学との官学連携)
- ・マスコットキャラクター「はかせんとくん」の登場
- ・ロゴマーク(制作者:水野学氏)のお披露目
- ・カウントダウンボードの除幕

■365日(1年)前(2016年9月3日)、200日前(2017年2月13日)、100日前(2017年5月24日)

「はかせんとくん」



なら

ロゴマーク

生産から販売までの一貫体制の構築

<農業、林業・木材産業>

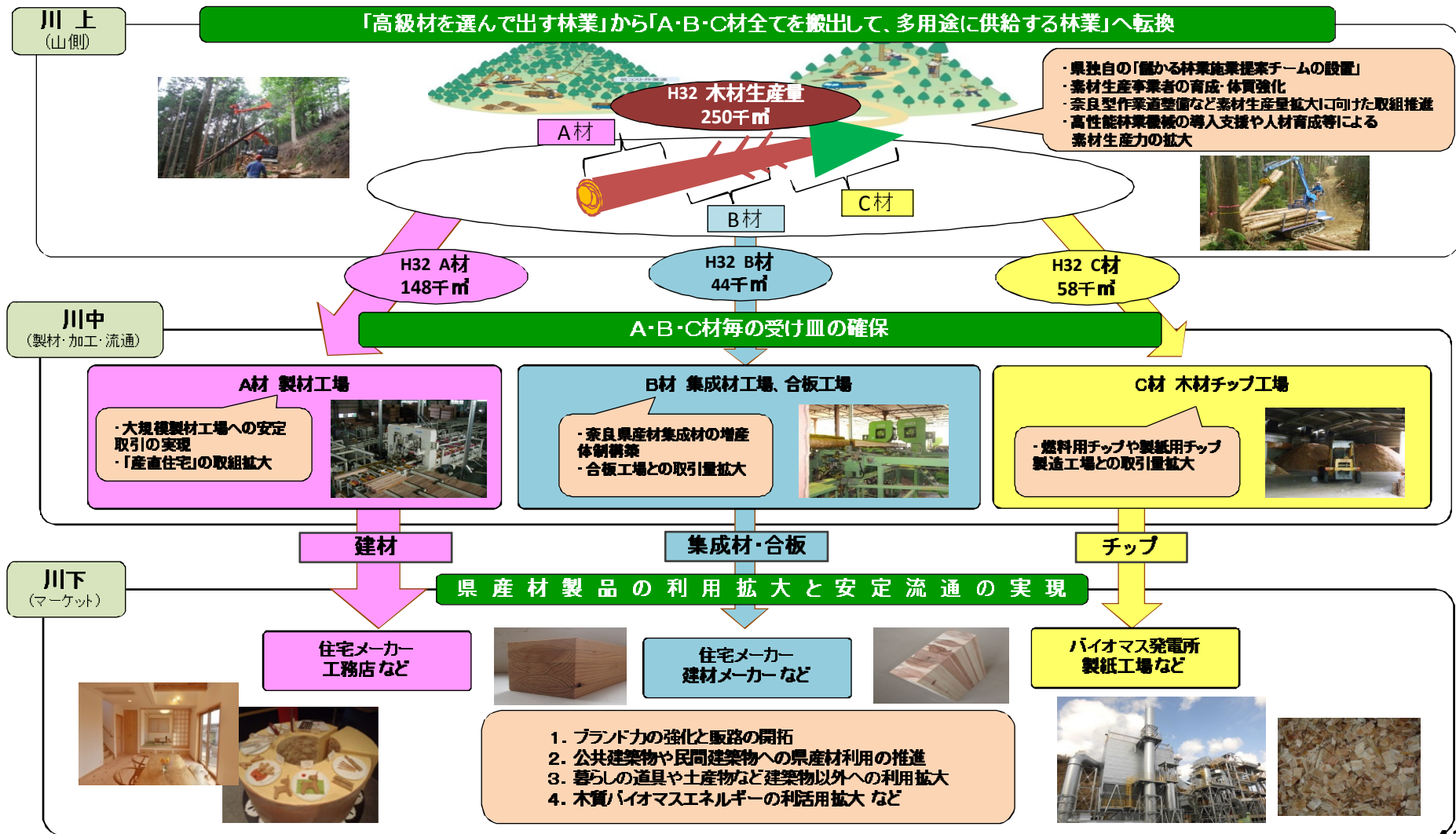
- ◆ 産業を活性化するためには、県内でお金が回るように、生産、加工、製造、流通、販売促進を地域で一貫して行う体制づくりが必要。



- 豊富な森林資源を県産材製品として流通させることにより、川上から川中・川下までの経済循環を活発にして、適正な森林づくりと地域産業の活性化、雇用の創出などを目指します。
 - 農業（大和野菜等）の分野では、首都圏や加工食品向けなど、多様なマーケットと生産現場とのコーディネート強化するため、県自ら、生産から販売までのコーディネートにチャレンジします。
- 県内で弱い部門・段階を補い、産業の一貫体制を構築するためにはどうしたらよいか。

「高級材を選んで出す林業」から「A・B・C材全てを搬出して多用途に供給する林業」へ
 転換し、A・B・C材ごとの受け皿確保と製品の安定流通を実現する木材産業の構築

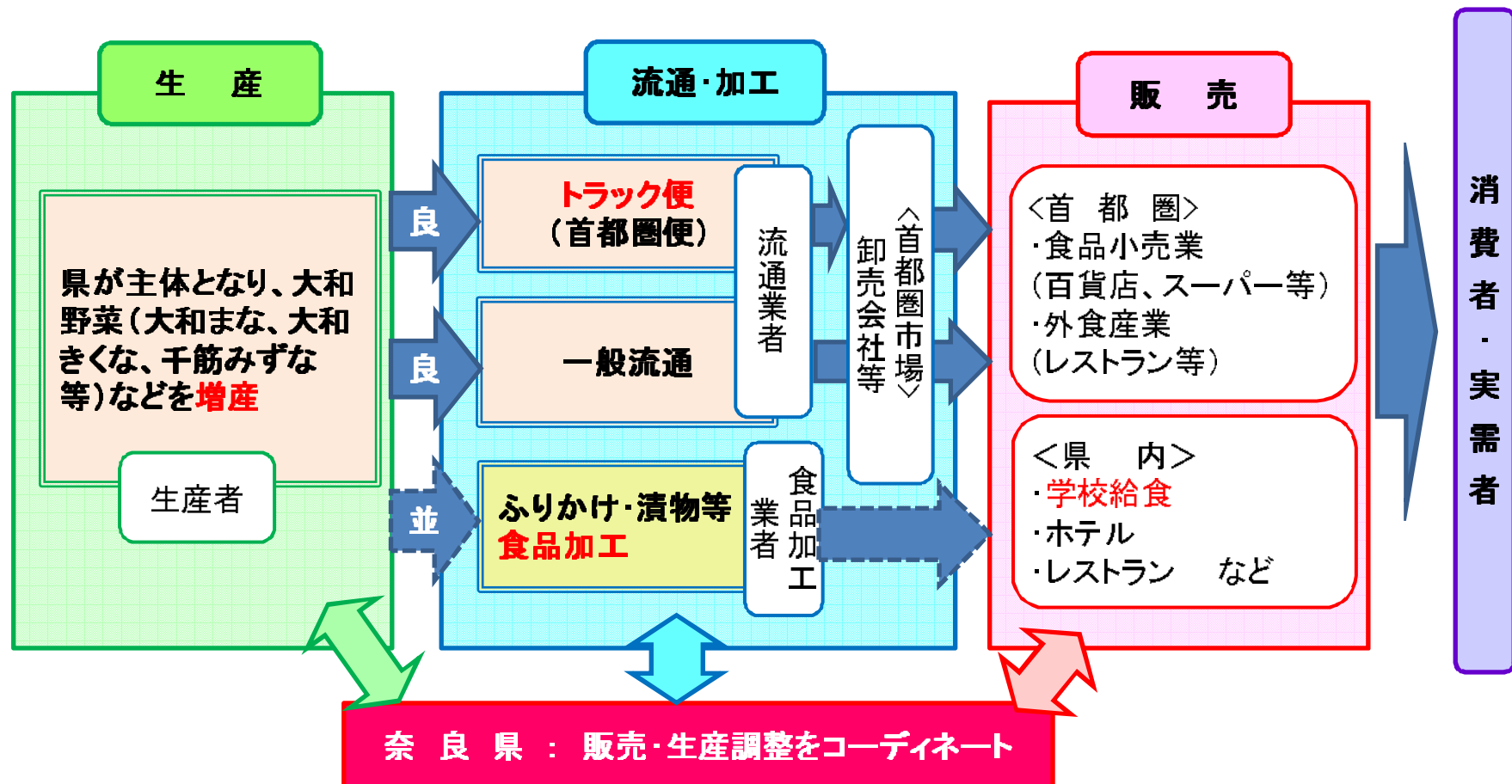
奈良県林業・木材産業振興プラン



大和野菜の生産拡大や首都圏配送に対する支援、加工品の製造・販売等を連携して実施することにより、生産・流通・加工・販売を連結する縦型事業協同組合の設立を目指す。

県が主体となった縦型事業協同組合のモデル実証

県自ら**生産、流通、加工、販売のコーディネート**にチャレンジし、**大和野菜**を増産して、**首都圏市場**をターゲットに販売



生産から販売までの一貫体制の構築
(地域資源活用型)

<漢方>

- ◆ 超高齢社会の到来を受け、「未病を治す」漢方が世界的に注目を集めており、**今後の需要が見込まれる。**
- ◆ 本県は**漢方や生薬製剤**について、奈良時代にまで遡る文化的・歴史的厚みや、地場産業として**配置薬業**が発展してきた**他府県にはない特徴**があります。



- 奈良県ならではの蓄積を活かし、原料となる薬用作物の生産、漢方関連品の製造販売に関する既存の業振興もさることながら、関連する**新たな商品・サービス等の創出**も視野に入れ、**県内の産業活性化**を図ります。

- **県特有の地域資源を活用した新たな産業の創出に向け、どう取り組んでいくべきか。**

漢方のメッカ推進プロジェクト

地方創生・南部東部地域を中心とした地域の活性化

産業化のための課題


漢方の産業化

- 産地育成
- 生薬原料のブランド化
- 流通機能の強化
- 漢方関連製品の開発
- 漢方関連市場の拡大
- 県民への普及

ステージ1 (生薬の生産拡大)

Point! 事業化推進の為に良質な原料の安定供給を目指す

- ① 宇陀薬草研究基盤の整備
- ② 薬用作物の生産拡大に向けた安定多収技術の開発
- ③ 薬用作物安定供給の研究
- ④ 薬用作物の生産振興

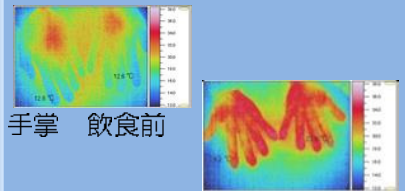


大和トウキ

ステージ2 (漢方薬等の製造)

Point! 事業化推進の為に商品化支援

- ⑤ 生薬製剤の共同開発
- ⑥ 川上・川下のマッチング推進
- ⑦ 漢方関連食品の製品化に向けた研究




トウキ葉0.2%スムージー
飲食15分後

ステージ3 (漢方薬等の研究・臨床)

Point! 事業化推進の為に技術支援

- ⑧ 国産生薬の使用促進支援
- ⑨ 大和の生薬の薬効研究




オンジ ケイヒ

大和漢方医学薬学センター (県立医科大学)
・漢方外来、漢方講座、セミナー開催、研究の学内公募

ステージ4 (漢方の普及)

Point! 「奈良のくすり」の認知度向上支援

- ⑩ 「奈良のくすり」のインバウンド消費の拡大
- ⑪ 漢方・生薬体験型PRの実施(森野藤助没後250年記念講演会の開催)
- ⑫ 漢方のメッカプロモーションの推進



森野旧薬園 (宇陀市)

IoTの活用による域内新ビジネスの拡大

- ◆ IoTを活用した新産業の創出に着目し、県においても、先進的な取組を進め、域内新ビジネスの拡大、新たな産業・雇用の創出に向けたチャレンジが必要。



- 超高齢社会をむかえ、時代に合った地域づくり、安心なくらしを守るため、医療・介護・福祉分野において、スマートフォンなどのIoTを活用した新たな生活支援サービスの導入を推進。
- また、IoTによる新たな地域サービスのアイデアを産む土壌の形成を目指し、あらゆるデータを地域に還元する仕組みを構築します。まずは、観光消費額アップを狙ったアプリの開発・実証を行います。
- 県内企業がIoTを活用し、新たなビジネスにチャレンジするため、ほかにどのようなアイデア・施策があるだろうか。

スマートフォンを活用して、山間部の高齢者等に向けた、健康づくりや見守りなどの様々な生活支援サービスを提供するアプリを開発。28年度から、市町村への導入を促進し、今後、市町村や利用者の意見を聞きながら、様々な機能拡充の検討をまいります。

生活支援スマホの導入

「奈良県版生活支援スマホ」の主な機能は以下のとおりです。高齢者にも見やすい・使いやすいトップ画面としました。



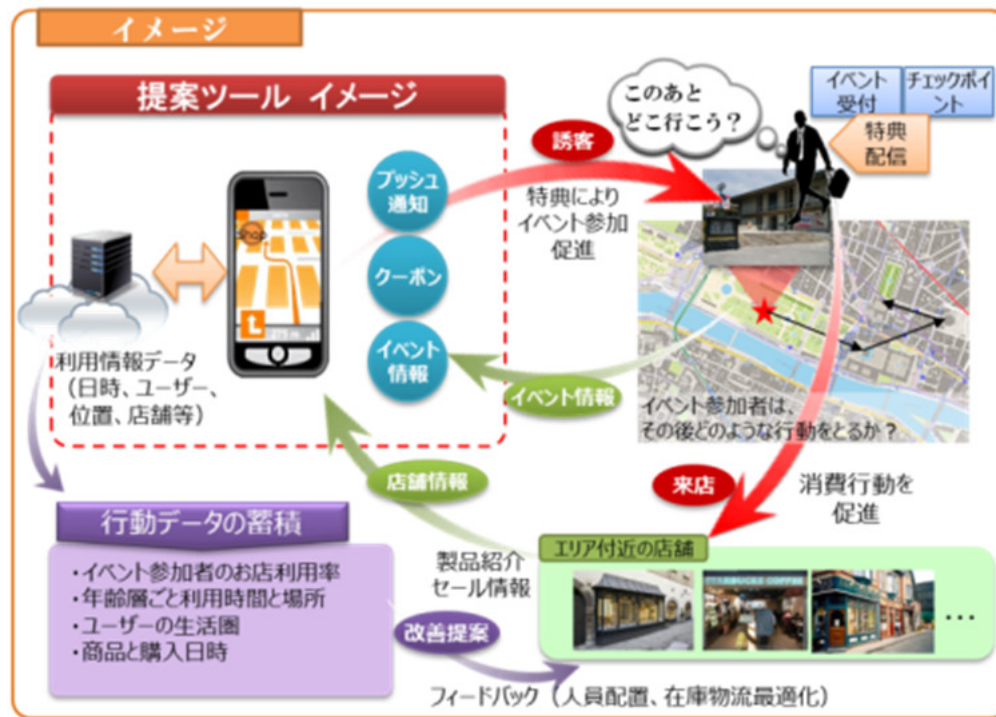
全世界的に進むIoTの取組に対し、本県においても、地域で生まれるあらゆるデータを積極的に地域へ還元する仕組みを構築し、地域社会の効率化を進めるとともに、新たな地域サービスのアイデア(新規事業の芽)を産む土壌を形成する。その一つの取組として、IoTを活用した観光消費促進アプリの開発・実証を行う。

産業興し(製造業)

IoTによるデータ活用先進地域形成事業

(1)アプリの開発・実証

- ・IoTを活用したイベント広報、消費喚起、効果測定の仕事の導入
- ・スマートフォンのアプリを開発し、県内のイベントで実証実験を実施
- ・県観光消費額を増加させるため、イベント等で訪れる観光客へ店舗を紹介して消費促進を図り、消費実態が把握できるツールを提供



(2)研究会の開催

アプリにおいて活用しやすいデータ構造及び本県に適した地域ソリューション等の検討を行う研究会を開催(年6回)

(3)アプリの発展に資する研究

県産振センターにおいてIoTに関する研究を実施

効果

- ・アプリにより、観光客の位置情報などのデータを活用・可視化できるシステムを構築
- ・地域にとって有用なデータの蓄積、また、それらを分析することで施策に還元
- ・IoTによる新たな地域サービスのアイデア(新規事業の芽)を産む土壌を形成